



Title	「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」プログラムの終了にあたって
Author(s)	岩政, 輝男
Citation	琉球大学21世紀COEプログラム「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析 - アジア太平洋域における研究教育拠点形成 - 」最終報告書(平成16年度~平成20年度):2-2
Issue Date	2009-03
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/10049
Rights	



「サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析」 プログラムの終了にあたって

岩政 輝男(琉球大学長)

琉球大学は「地域性と国際性を持つ大学」ですが、日本国内の他の大学と全く異なる設立の理念と経緯をもっています。1950年に、米国の Land grant university の一つであるミシガン州立大学の指導のもとに設立され、教育研究が始められました。従って、「地域性」には Land grant university の研究成果を地域に還元するという理念が含まれ、さらに「国際性」は現在のグローバル化とその経済システムのもとで失われつつある生物多様性や環境破壊、さらに格差の問題などに積極的に取り組むためにアジアや太平洋域に広がる学問を育てることが含まれています。沖縄はかつては独立王国で東南アジア、太平洋域、中国そして日本を結ぶ経路の中心に位置し、独自の文化や思想を発展させてきました。私共は沖縄の歴史的、地域的特性さらに自然を生かし優れた人材と個性的な研究拠点になることを目指しています。

琉球大学21世紀 COE プログラムではこのような大学の基本的な理念に基づき、サンゴ礁島嶼系における生物多様性について総合的に解析し、世界的な教育研究拠点形成を行いました。文部科学省が平成14年度から進めてきた21世紀 COE プログラムは、世界的な教育研究拠点の形成を重点的に支援し、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進するためのプログラムで、大学院後期課程学生や博士研究員などの若手研究者、さらに外国人研究者の育成が期待されています。私共は沖縄の自然が有する特徴を生かした、さらに固有の歴史や文化に根ざした教育

研究によってこの目標達成に努力してまいりました。

琉球列島の生物相は、大陸と陸続きになる、あるいは分断されるという大きな地史的過程の中で形成されてきました。黒潮やモンスーンのもたらす温暖湿潤な気候の影響を受けていることも大きな特徴で、世界的に見ても重要かつ魅力的な多様性研究の材料があふれています。琉球大学が、国内外から多くの研究者や学生が集まり、生物多様性に関する活発な研究教育活動が展開される国際的な特徴ある拠点となることは大きな意味があります。現在の環境問題を考えるとき、サンゴ礁や島嶼がもつさまざまな課題は地球規模で考えるべきものであり、我が国において唯一この様な自然環境を有する沖縄から、優れた特徴ある研究を世界に向けて示す大きな役割を琉球大学は負っています。

琉球大学の本プログラムは理工学研究科海洋環境学専攻のメンバーを中心とし、多くの学部から研究者や大学院生が参加して進められてきました。このチームは国内外の多様な連携協力体制を整え、大きな成果を出してきましたが、将来さらに大きなプログラムに進化して、学問の深化発展と環境問題の解決に貢献することを期待します。

